西郷地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２６年１０月１４日（火）　１９：００～２０：１０
２　会　場　西郷地区公民館
３　出席者　地元出席者　　３８名
市側出席者　　１７名
深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中企画推進部長、坂本福祉保健部長、秋山総務調整監、久野新市域振興監、高橋秘書課長
＜河原町総合支所＞窪田支所長、西尾副支所長、谷口市民福祉課長、長谷産業建設課長、山根水道局河原営業所長
＜事務局＞馬場協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、田中協働推進課主事

４　「地域でのむらづくりの取組状況」についての報告
※むらづくり協議会作成のＤＶＤを放映

５　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）
（地元意見）
市としては、地方創生に向けてどんな取り組みをしていますか。進捗状況も教えてください。また、組織が発足すると政府から交付金が下りてくると思いますが、その交付金はどこに力点を置いて運用していくのでしょうか。

（深澤市長）
今鳥取市がどのような状況でどんな課題があり、それをどう解決していくのかということがあります。鳥取市は、平成１６年１１月の合併によって従前の３倍以上の市域を要する、非常に大きなまちになりました。人口も２０万人になりましたが、今は１９万３千人まで減っています。全国的に各自治体で人口減少や少子高齢化がいわれていますが、これは鳥取市についても共通した課題です。いかに人口減少を食い止めていくのか、あるいは若い方にもっと鳥取市に定着して活躍していただくかが課題だと考えています。そのためには働く場の確保が必要ということで、最重要課題の１つとして雇用の創出に取り組んでいます。また、働く場を確保するだけでなく、若い方にとってもっと魅力のあるまちにしていかなければいけないし、安心して子育てができなければいけません。
国も「まち、ひと、しごと創生本部」ということで地方に目を向けており、地方をもっと活力のあるものにし、地方を再生させることが国の再生につながるのだという考え方だと思います。今後、鳥取から提案していくのだという気概でまちづくりに取り組んでいかなければならないと思っていますが、具体的には雇用の創出が喫緊の課題かと思います。そのためには、地場産業のさらなる支援と底上げ、そして誘致企業の増加が必要だと思います。幸いにも、鳥取は台風もあまり直撃せず地震のリスクも少ないなど、災害が少ないことが非常に評価されており、順調に企業誘致も進んでいます。若い方に働いていただく

場を作っていかなければならないということで、今年度から４年間で５千人以上の雇用を創出していこうという目標を掲げて取り組んでいます。また、子育てがしやすい環境として、例えば保育料が安くできないか、あるいは放課後児童クラブをもっと充実できないかなど、総合的に取り組んでいきたいと思っています。進捗状況としては、このようなことを中心に、今まさに取り組んでいる最中です。

国からの交付金は、金額や何に使えるかがまだはっきりしませんが、交付金ということもあり補助金のように目的が限定されることはないかと思います。地方のアイデアや創意工夫を活かせるような制度になるのではないかと思っていますし、そうしていただきたいと考えています。

今、まさに地方の知恵のだしどころだと思いますので、今後も皆様と一緒になって、しっかりとまちづくりを進めていきたいと思っています。

（地元意見）

国は女性を登用するということで非常に頑張っていますが、鳥取市が音頭を取らなければ、鳥取県全体がそういう雰囲気にならないと思います。ワークライフバランスも同時並行だと思います。

（深澤市長）

「女（ひと）と男（ひと）とのハーモニーフェスタ」を、今年も市民会館で開催させていただきましたが、これは毎年ずっと継続しています。男女共同参画などとも言っていますが、今後もっと女性にご活躍いただいたり、女性が登用されて活躍される場が増えるよう、市役所でも取り組みを進めていかなければならないと考えています。

鳥取市が音頭取りをというご意見でしたが、女性の皆さんに活躍していただける場を作っていこうということで、さまざまな取り組みをしています。男女共同参画の推進、そしてワークライフバランスも女性の登用と関係があると考えています。仕事と家庭が両立できるよう考えていかなければ、女性に活躍をしていただくことは難しいと思います。先日市民会館で開催された鼎談でも、育児や家事の全般を女性がされている現状があるが、男性ももっと一緒になってしていかなければならないということ、また、介護等が必要な方がおられる場合も、男女がお互いに助け合っていかなければ、女性だけでは大変だというような話をさせていただきました。

鳥取市としては、今後も男女共同参画社会の実現に向けた取り組みをしっかりと進めていきたいと思いますし、率先して実施していきたいという思いでおります。

（地元意見）

ケーブルテレビで市についての放送を見ていると、何をするにも本部となる市庁舎問題が、もたもたしていてイラつくぐらいです。民主主義の世の中だから２／３以上が必要だとして、議会では議員が１人抜けたためにご破算になりましたが、次の選挙になれば、また反対のための反対が出てくると思います。このままでは、１００年経っても新庁舎はできないと思います。反対のための反対が出れば、結局何のために５年間も６年間も論議したのか分からなくなります。鳥取市は地盤がとても軟弱なので、改修してもまともなこと

にはならないと思います。職業柄、市内の建築をずっと見てきたから分かります。私は、改修すれば新築以上に費用がかかると思います。

（深澤市長）

市庁舎に関しては、５年前に議会に特別委員会ができ、今は第４次特別委員会が作られ議論が重ねられてきています。今までに、委員会は１０７回と、１００回以上も開かれており、議会では先進地の視察もされました。そして、その間に住民投票も行われました。未だにこの問題は解決に至っていませんが、正しい形で解決を図り、将来に禍根や悔いを残さないようにしなければなりません。そして、私達の次の世代に課題を先送りしたり、つけを残すようなことがあってはならないと考えています。

昨日、今日と台風がきましたが、災害が発生した時の市役所職員の究極の使命は、市民の皆様の生命を守ること､これが我々の行き着く一番の仕事であり使命だと考えています。大きな地震がくれば壊れてもおかしくないという現在の古い庁舎に詰めていては、その使命が果たせないと思っています。庁舎問題は、速やかに正しい形で解決するべきだと私は思っています。正しい形とは新築です。今、合併特例債という、またとない有利な制度があります。あと５年以内であれば１／３の負担で済む上、２０年の分割払いができ１年あたりの負担が少ないという、二度とない有利な制度です。この制度を利用し、市民の皆様に負担をおかけしないような選択をすべきだと思っています。

また、現在は庁舎が数か所に分かれていて非常にご不便をおかけしていますので、これをまとめ、１か所にお越しいただければ全ての用事がそこで済むようにしなければならないと思っています。

この問題は、１０月６日の議会で０．５人ほど足らず否決されました。他に良い案があるのではないかということで反対されるのであれば分かりますが、私も反対のための反対のように思えてならないところがあります。

そうではなく、意見や考えが多少違っていてもお互いに歩み寄って正しい形で速やかに解決すべきだと思いますので、私も引き続き全力で問題の解決に向けて努力していきたいと思っています。

（地元意見）

私も、市庁舎は新築移転した方が良いと思っていますが、なかなかうまく話が進まないので、何とかならないかと思っています。２０万人規模の市庁舎を考えておられると思いますが、もう少し規模を縮小して建設費が大きくならないようにするなど、反対派に少しは妥協してもらえるようにしないのですか。

（深澤市長）

庁舎規模などは今後具体的に決めていきますが、あまり小さくはできないし、すべきでないと私は思っています。その理由はいくつかあります。例えば、鳥取市は現在、平成３０年４月を目途に中核市に移行しようという取り組みを進めていますが、中核市に移行すると県から約２千程度の事務が鳥取市に移ります。小さい規模で市庁舎が分散していると非常に不便になる可能性もありますし、かえって維持管理の負担が多くなるため効率的で

はないと考えます。そのあたりは、鳥取市が将来どういったまちに発展していくべきかということをしっかり見すえて、具体的な詰めをしていくということになるかと思います。

これは参考ですが、現本庁舎は、具体的に建設が検討されたのが昭和３７年で、建設されたのが昭和３９年です。新庁舎は、検討を始めてすでに５年が経過していますが、５０年前の先人達は約５か月で結論を出しました。５０年前の検討の際には、数十年後にどういったまちになるかということを見すえて事業に取り組んでおられます。将来鳥取市は人口１５万人のまちになるだろう、そして職員は約８５０人程度になるだろうという推計をしています。これはほとんど合っており、合併直前の旧鳥取市は人口が約１５万人でした。こういった先人たちの取り組みも思い起こすわけですが、その後合併して、鳥取市は７６０ｋｍ^{2}の非常に大きなまちになりました。そして今後の鳥取市には、中核市を目指し、東部圏域における地方中枢拠点都市として、この圏域の発展の中心になっていくという役割が求められていると思います。それにふさわしい立地、ふさわしい規模の庁舎を選択していくべきだと私は思っています。

ただ、財政効率を考えれば、既存の庁舎を最大限活用して財政負担をできる限り少なくしていくことも大切だと思っています。

（地元意見）

市の職員が十分仕事をするだけのスペースと機能を持ってほしいと思います。そして、我々市民が利用しやすい場所に建ててほしいです。久松山に近いエリアは、鳥取市の歴史と文化のエリアとして整備していただきたいという気持ちがあります。

（深澤市長）

現本庁舎は本当に狭い中で職員が頑張って仕事をしていますが、市民の皆様のために良い仕事をさせていただくためには、やはり職場環境を整えていくことが大切ではないかと思っています。あまり広い施設は必要ないかもしれませんが、職員が力を出して快適に仕事ができる環境を整えていくことが大切です。そういう視点に立って、この庁舎問題を解決に向けて進めていきたいと思います。市民の皆様が利用しやすい市役所、そして立地でなければならないというご意見ですが、私もその通りだと思います。合併によって鳥取市も広いまちになりましたし、道路アクセスも考えると、やはり駅南の市立病院跡地が優れているのではないかと思います。

また、久松山に近い現本庁舎周辺は、私も城跡に近い歴史文化ゾーンとして、もっとふさわしい活用方法があるのではないかと考えていますので、地域の皆様、あるいは市民の皆様からいろいろなご意見をいただきながら、現本庁舎を今の場所にずっと置いておくよりももっと良い活用方策を、今後検討していきたいと思っています。

（地元意見）

山手工業団地の計画について最近あまり聞きませんが、どういう計画になっていますか。

（深澤市長）

早ければ、来年度から分譲開始できるのではないかと思っています。排水路から工事を

始め、できれば年内に造成工事にかかりたいと考えており、すでに設計を行っています。企業誘致の関係で、もう工業団地が足らなくなっているという状況ですので、速やかに造成工事を進めていきたいと思っています。

（地元意見）

曳田の下から天神原の間の県道が、道が悪いです。３、４年前に、西郷地区と八上地区が合同で県と市にお願いしました。県と市が動いてくれ地権者の協力もあって、何とか前に進むと聞いています。おそらく今は用地交渉の最中だと思いますが、交渉が完了したら可及的速やかに整備してほしいです。我々にとっては長年の懸案事項ですので、ぜひともお願いします。

（深澤市長）

県と一緒になって、一所懸命進めさせていただきたいと思っています。

（地元意見）

むらづくり協議会は、市の補助金をいただいていろいろな事業を実施しています。ただ、役所からもらう補助金は使いづらい部分もあります。ぜひとも交付金的な補助金にしていただいて、もう少し使いやすくしてほしいです。

（企画推進部長）

協働のまちづくり事業の補助金をご利用の場合、コミュニティ計画に掲げた事業が対象になるという部分が縛りになるかと思います。西郷地区はいろいろな取り組みをしていらっしゃるので、財源確保に向けて知恵を絞っておられるものと思います。まちづくり協議会に対しては、財政的支援に併せてコミュニティ支援チームによる人的支援をさせていただいていますので、チーム員とコミュニケーションをとりながら事業を実施していただけるよう、日頃から連絡を密にしていただければと思います。

（地元意見）

今、全国的に災害が多い時期で、この辺りもいつどうなるか分かりません。災害が発生して電気が止まった時に頼りになるのはラジオです。ところが西郷地区では、例えば私が住んでいる所だとＢＳＳ放送は何とか入りますが、ＮＨＫ第１放送は入りません。地域によっては、反対にＮＨＫ第１放送は入りますがＢＳＳ放送が入らない地域もあるようです。直接市の担当ではないと思いますが、どこにいてもラジオが入るようにしてほしいです。

（深澤市長）

ラジオの電波の伝わり具合が地形的に良くない所があるのではないかと思いますが、具体的にどこの地域が聞こえづらいのかが承知できていませんので、支所から状況を具体的に聞かせていただきたいと思います。鳥取市の業務ではないというようなことではなく、関係先に要請等をする場合があります。例えば携帯電話等でも、つながりにくい地域については市から要請したりしています。やはり、いざという時にはラジオも頼りになります

ので、実状を把握させていただいた上で要請等をさせていただきたいと思います。

＜担当課補足：財産経営課情報政策室＞
　後日、地区に詳細をお聞きし、１、２年前からの症状であると確認しました。
　周辺環境の変化等が要因である可能性も踏まえ、ＢＳＳとＮＨＫに対してご要望をお伝えしたところ、以下のとおり回答をいただきました。
【ＢＳＳ】
　機器等に問題はなく変更等も行っていないため、現状を維持します。
【ＮＨＫ】
　機器等に変更はないため調査が必要ですが、状況把握のためにも聞き取りをさせていただきたいので、相談窓口にご連絡ください。

（地元意見）
　小学校と保育園の間の園地を利用して、地区公民館を建設する予定になっています。我々としても苦渋の選択ですが、ある程度はやむを得ないと考えています。施設の中身については地元と議論した上で、ぜひともしっかりした機能の公民館にしてほしいです。西郷地区は一番山奥にあります。この田舎にとって地区公民館は中核施設ですので、他地区よりも良い内容をお願いしたいと思います。

（深澤市長）
　地域の皆様にいろいろ検討していただいた結果、場所についてはおおよそ選定していただいたように思いますので、建設に向けてしっかりと取り組ませていただきたいと思います。中身をしっかりしたものにということと、他地区よりももっと良い内容でということですが、全ての公民館について良い内容で進めさせていただきたいと思っています。機能については、どこの地区公民館においても、それぞれの地域の皆様のご意見を最大限尊重させていただいています。いろいろご意見を出していただき、一緒になって設計に向けた取り組みを進めさせていただきたいと思っています。

（地元意見）
　どんな地区公民館が完成するのか、すごく楽しみにしています。場所的にはすごく難しい場所ですが、小学校と保育園にはさまれた非常に良い立地条件だと思います。保育園と一体化したような利用ができる地区公民館にすれば、立地が活かされて良いのではないかと思います。縦割りにこだわることなく利用できればと思います。

（福祉保健部長）
保育園と一体化した施設というご提案は、大変良いお話だと思います。地域においては、例えば高齢者の方が高齢者のみで集まるのではなく、子どもや若い方も一体となった施設があることが最善であり、機能として一番良いと思います。今ある保育園を地域の中でどのように活かしていくかということを検討し、その中で地区公民館の一体化も含めて考えていくことは大事だと思います。他の地域でも、地区公民館の改築にあたって地域の人も一緒に活動ができる施設を希望され、具体的に建築が進んでいる例もあります。

（協働推進課長）
建設にあたっては、施設検討委員会を作って地元の皆様にも施設の検討をしていただくことになりますので、その節はよろしくお願いします。

（地元意見）
西郷保育園は今後どのような方向性になりますか。少子高齢化になっていますが、村の中から子どもの声が聞こえなくなるのは大変寂しいですし、若い人が村にいれば子どもも増えると思います。若い人が田舎に帰って子育てをして仕事をするという流れを含めて、今後についてのお考えを聞きたいです。西郷保育園は市内の過密な所と違って大変環境の良い所なのでぜひ残してほしいと思っています。

（福祉保健部長）
世代を越えて皆が集まり、その中で子どもたちが楽しく育っていくような保育園のあり方が大切だと思います。保育園のみを独立して考えるのではなく、地域の中の全ての要素を含んだ形のものを作っていかなければいけないと思っています。今後保育園を改築する際には、地域の中で総合的にどう活かしていくのかということを地域の皆様と話をしながら検討させていただきたいと思っています。

（深澤市長）
小学校のあり方についても、いろいろな視点から検討していくべきではないかと思います。少子化が進んでいて、子どもの数は減少傾向という地域が多くあります。教育面では、児童数が少なく１学年が数人しかいない中で６年間教育を受けていくのが良いのか、あるいは多少通学に時間がかかっても、もう少し大人数の環境の中で教育を受ける方が良いのかなど、さまざまな考え方があると思います。このように、教育の問題はいろいろな視点で考えていく必要があり、あまり効率性だけを前面に考える問題ではないと思っています。地域の皆様としっかりとお話をさせていただきながら、子どもたちの将来にとって、また地域にとってどういう選択が良いのかを、一緒に検討していくべき課題だと考えています。

（地元意見）
建物を造るのは良いのですが、今後は無駄な建物を壊していくことが必要だと思います。西郷地区公民館はずいぶん古く、地震がきたら壊れるのではと心配しているくらいですので、新しい地区公民館が完成したらすぐ壊して、駐車場がないので駐車場として使用する

など検討してほしいです。鳥取市には無駄な建物がずいぶんあると聞いていますので、市役所を造ると同時に、有利な補助金制度を使用して５年以内に壊していくのが良いと思います。

（深澤市長）

合併して施設の数が増え、市内には現在１，００１の公共施設があります。また、延床面積では、市民１人あたりの公共施設の床面積が４．６５m^2です。全国平均は３．４２m^2ですので、鳥取市は非常に公共施設が多い市であるといえます。これを更新して、将来も維持したり新しくしたりするとなれば、非常に多大な経費がかかることとなるため、今から対応できるようにしていかなければいけません。これは公共施設の更新問題として、全国の自治体で課題になっています。有利な財源をできる限り適切に活用して市の負担を少なくすることは、公共施設問題だけでなくさまざまな事業に当てはまることですが、合併特例債が使える５年の期間内に全部を取り壊すのは、なかなか難しいのではないかと思います。しかし、できる限り有利な財源を活用して、公共施設問題もきちんと対応していきたいと思っています。

（地元意見）

西郷を陶芸の里にしていきたいという思いを持つ方がおられます。そのためには、陶芸に関わる人達がここに住めるような環境づくりが必要だと思います。

残念ながら、西郷地区には空き家が増えてきています。むらづくり協議会の部会でも、空き家調査と研究をしています。賃貸あるいは改修する場合の補助などについての情報提供は、とても大切なことだと思います。もし良い情報があれば、空き家の提供などの良い話にもつながるのではないかと思います。

（深澤市長）

陶芸の里ということで今、西郷地区は非常に注目されているように思います。第１回目の「ギャラリーあっちこっち」でも皆さんが散策をして楽しまれ、非常に好評だったように思いますし、陶芸を目指される若い方も全国で増えてきているように思います。ここにはすばらしい窯がありますから、多くの方に移住定住でもしていただければ、我々としても大変ありがたいと思います。ただ、空き家の提供に関連して活用できる制度が、鳥取市には今のところないように思います。そのあたりは、これから研究していくべき検討課題だと思います。来てくださる方がどんどん増えれば大変ありがたいと思いますので、負担が軽減できるような方法がないか検討してみたいと思います。

６　市長あいさつ

今日は限られた時間ではありましたが、本当に中身の濃い、また多方面にわたるご意見やご提言をいただきました。心から感謝申し上げます。いなば西郷むらづくり協議会のＤＶＤも拝見いたしましたが、改めて大変すばらしい取り組みだと思ったところです。今年は、合併１０年という節目の年です。これからも皆様と一緒になって将来を見すえ、もっともっと素晴らしいまちづくりを進めていけるのではないかと思っています。今後も皆様

と一緒になって、協働のまちづくり、将来を見すえた鳥取市を築き上げていきたいと思っています。庁舎問題ももう少しのところまできていますが、なかなか解決に至っていません。速やかに正しい形で収束できるように、今後も引き続き全力で取り組んでまいりたいと思っています。

長時間にわたり熱心にご議論いただきましたことに重ねて感謝申し上げ、地域づくり懇談会を閉会するにあたってのお礼のご挨拶に代えさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。